JIA兵庫 開明中で出前講座

2年生300人にまちづくりの楽しさ伝える

日本建築家協会（JIA）近畿支部兵庫地域会（菅原英房地域会長）は25日、大阪市城東区の開明中学校で出前講座を開いた。会員らが講師を務め、2年生約300人が段ボール箱を使って家やまちの模型づくりに挑戦した。

工作に取り組む生徒ら

出前講座は「すまいまちづくり育成塾」と銘打ち、子どもたちに建築やまちづくりに親しみを持ってもらおうと毎年企画している兵庫地域会の目玉事業。同校での開催は4回目となる。当日は近畿支部の他地域会員らの協力を得て、午前と午後に分けて7クラスで約40人の講師が模型製作を指導した。

生徒には事前に宿題が与えられ、それぞれが思い描く部屋の用途を考案。当日は読書スペースやコレクション部屋、ゲームルームなど各案を持ち寄り、段ボールでできた実物の20分の1の立方体の箱「T－CUBE」を使い、2人組になって自分の箱と共用部分のT－CUBEの使い道を考えてもらう。窓や入り口などの配置案を練り、T－CUBEが3個一体となった家を製作。完成後に6人組になり、「どんな村にしたいか」を考えながら池や丘がある敷地に箱を置き、小さな村を完成させる。

同校ではキャリア教育の一環で出前講座を実施。峯岸敬子学年主任は「子どもたちが自発的に意見を出し合い、ものづくりを楽しめる点に意義がある」と話す。出前講座の実行委員長を務める尾瀬くみ副地域会長は「子どもたちが発想力を生かし、ひらめきを具現化できる機会として今後も展開したい」と語った。

完成した村（JIA兵庫提供）